

令和5年度政務調査報告 (前期)



会派 新政いいだ 筒井 誠逸報告

1

岩手県 紫波町 「オガールプロジェクト」



- おがる = 方言で「成長」
- ガール = フランス語で「駅」

目的:

官と民が連携し、都市と農村の新しい結びつきを創造した実例。

2

岩手県紫波町(しわちょう)の概要



- ・人口 32,937人
- ・世帯数 12,911世帯
(令和5年9月末日現在)
- ・面積 238.98km²

1955年(昭和30年)に1町8カ村が合併し誕生した。盛岡都市圏の南部、盛岡市と花巻市の間に位置する。中央部を北上川が流れ、東側には北上高地、西側には奥羽山脈が聳える。国道4号など6本の幹線が町を南北に走り、インターチェンジや3つのJRの駅がある。

3

オガールプロジェクトの目的

・オガールプロジェクトは紫波中央駅開業に合わせて10.7%の塩漬け土地の開発を公共連携PPPの手法を用いて行われた。事業の実施前にテナントを100%確保し、建物のデザインは統一しているが、個別の事業体で進めている。



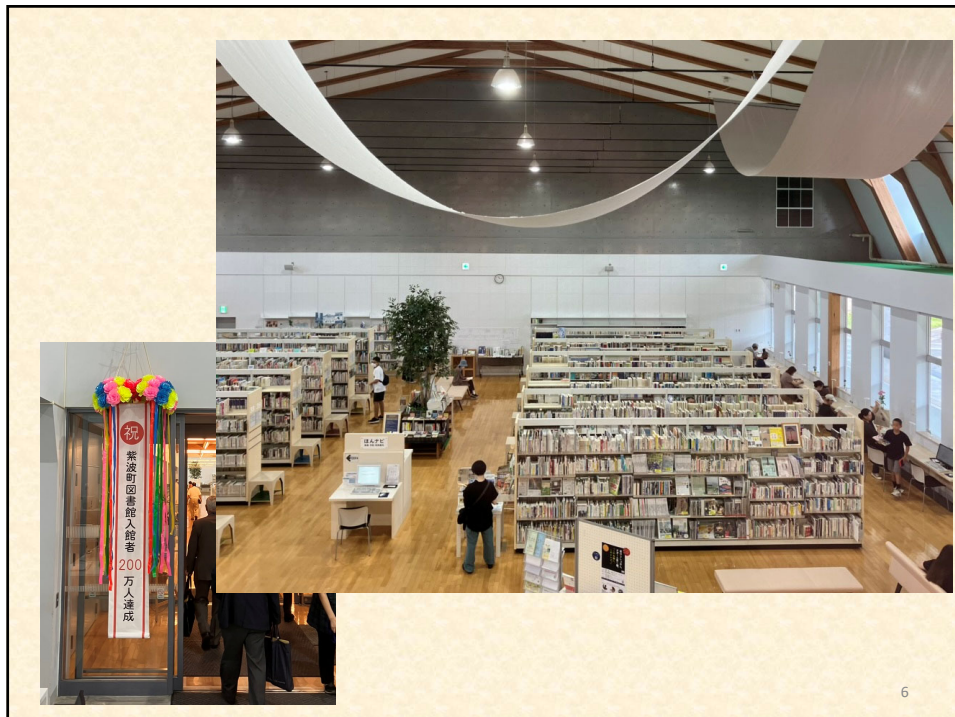
オガールベースから紫波中央駅を望む

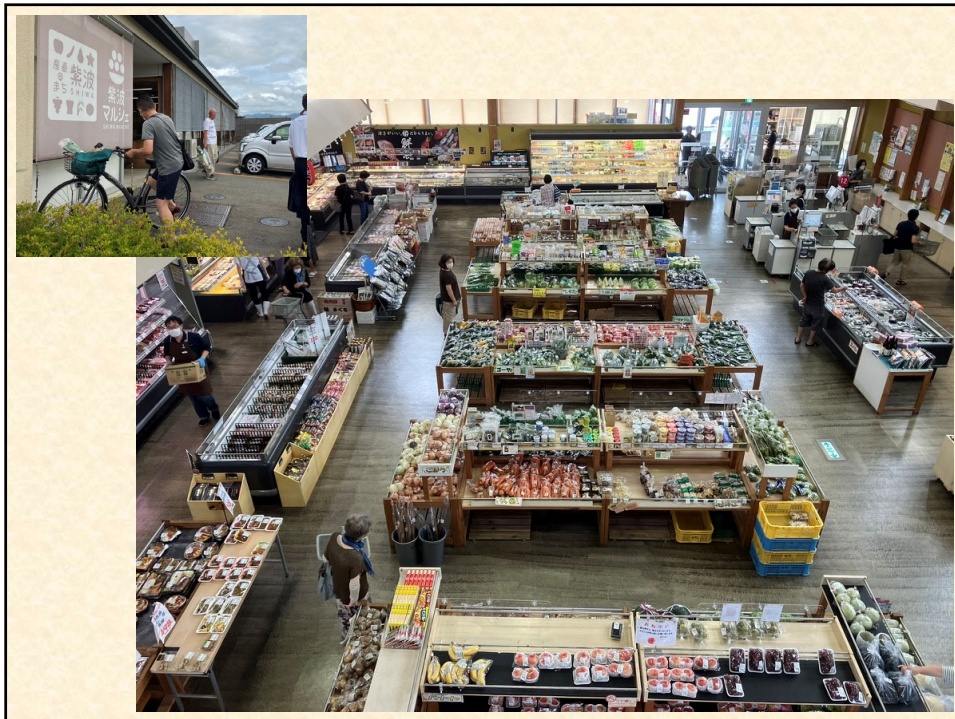
紫波町の特徴

- ・ 果樹の生産地
- ・ 全国屈指のもち米の産地
- ・ 10ヶ所の産直所があり、都市と農村の交流点
- ・ 4つの造り酒屋がある
- ・ 「循環型まちづくり」に取り組



5





岩手県矢巾町 「フューチャーデザイン」



目的：
持続可能な水道
施設について住民
のサポーター制度
により検討し、料金
改定の提案を受け、
改定後の現在も続
く。その手法を学ぶ。

岩手県矢巾町の概要

- ・人口 26,458人
- ・世帯数 11,016世帯
(令和5年4月1日現在)
- ・面積 67,32km²

岩手県のほぼ中央部に位置し紫波郡に属する町である。盛岡市南部に隣接するベッドタウンとして開発が進み、過疎化が深刻な岩手県において人口増加が進む自治体である。



アウトリーチで意識を把握

何気なく使っている水道に対する意見の特徴

関心があるのは、蛇口から出た水！その手前はあまり意識されていない。

安全は当たり前

- 水道料金が高い
- 水道水は塩素臭い
- もっと料金が安くないの…
- 飲むのはスーパーのイオン水
- おいしくない

当たり前と思われている分、出てくる意見は批判的なものが大半…

アンケートを1000人に対面で調査し、回答率95.4%、ニーズを把握

社会的ジレンマの存在

アウトリーチで把握したニーズ

水道サポーターの初回のニーズ

水道料金の値下げを主張する
水道の安全性やおいしさを求める

↓

ワークショップ開催

↓

このままでは水道は維持できない。
料金改定をするべきと、住民から提案

ワークショップ参加者

性別	人数	年齢層	人数	年齢層	人数
1 男	20	1 19歳以下	2	5 50~59歳	10
2 女	35	2 20~29歳	9	6 60~69歳	11
		3 30~39歳	8	7 70~79歳	3
		4 40~49歳	11	8 80歳以上	1

11

ワークショップの手法

- フューチャーデザイン
- CAUSEモデル(有償ボランティア)

12

岩手県 盛岡市 ニューヨークタイムズ紙掲載の 関連事業について



- ニューヨークタイムズ誌「2023年に行くべき世界の52ヶ所」の2番目にランク。
- 令和5年1月の掲載後、盛岡市はただちに観光推進計画を前倒し、推進した。

13

岩手県盛岡市の概要

- 人口283,800人
- 132,800世帯(令和5年7月)
- 面積 886.47km²(東京23区の約1.4倍)

・盛岡市は県庁所在地及び県最大の都市で、中核市、保健所政令市、中枢中核都市に指定されている。

・地理的には岩手県は北海道に次ぐ2番目の面積県があり、盛岡市は県の内陸部、北上山地のほぼ中央部に位置し、市内中心部に主流北上川に雫石川、中津川が合流する。

中心市街地からは奥羽山脈に属する早池峰山(東)のほか、独立峰の姫神山(北)、南昌山・東根山(南)などを望み、これらは市域の内外にありながら街のランドマークとなっている。市域は豊かな自然に恵まれ、美しい景観を形成している。



14



ご清聴ありがとうございました



花巻空港までの帰路にて 花巻市国道4号線バイパス 道の駅「石鳥谷」 八幡田んぼアート